

算数 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講 評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	78.5	90.0	例年通り、四則演算を含む小問集合であった。合格者の9割超が確実に得点できている。正答率がやや低い(6)は、糸の巻き付いた円錐の展開図を考える定番の問題であった。
	(2)	96.5	98.8	
	(3)	88.0	98.8	
	(4)	82.3	98.8	
	(5)	74.4	95.0	
	(6)	43.0	77.5	
【2】	(1)	93.0	100.0	速さの基本的な問題。取りこぼしは避けなければいけない問題。
	(2)	74.7	91.3	
【3】	(1)	63.6	92.5	典型的な通過算の問題であったが、結果的には合格者と不合格者の正答率の差が大きく出ており、合否を分ける問題となった。
	(2)	50.6	88.8	
【4】	(1)	63.6	77.5	(1)は正解が複数あり、新傾向の問題であった。普段から意識的に立体図形に触れ親しんでおきたい。
	(2)	6.6	20.0	
【5】	(1)	96.9	99.3	(1)はつるかめ算でよくできていた。(2)は応用であるが、部分的に(1)が誘導になっていた。また、複数の答えを解答しなければならず、条件に見合うものを取捨選択できるかがポイントであった。
	(2)	23.9	33.7	
【6】	(1)	73.9	94.0	折れ線上を移動する円の軌跡に関する問題。図形の周りを図形が転がる問題は世田谷学園の定番である。(1)では円がどのような軌跡を描くのかイメージできるか、(2)では面積を求める部分をどう分割して求めるかがポイントであった。
	(2)	25.3	50.4	

算数特選 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講 評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	90.9	96.9	年齢算の定番問題。大半の受験生が正解しており、合否には影響のない問題だった。
	(2)	93.6	98.8	
【2】	(1)	82.9	89.8	コラッツ予想に関する整数の問題。(2)では条件に合致するものを過不足なく抜き出す注意力や集中力が求められた。
	(2)	53.9	73.7	
【3】	(1)	57.9	79.7	円と直線の作る角や面積の問題。うまく補助線を引けるかがカギであった。合格者と不合格者の正答率の差が大きく出ており、合否を分ける問題となった。
	(2)	69.4	91.3	
【4】	(1)	74.5	89.1	条件を満たす領域を図示する新傾向の問題。特に(2)は、題意を満たす領域がどの部分であるのか把握できない答案が多くみられた。
	(2)	36.0	56.8	
【5】	(1)	81.7	95.2	立体図形における比を利用する問題。(2)では「水面の高さが変わらない」時間帯が3回訪れることがポイントであったが、概ねよくできていた。
	(2)	58.3	84.6	

算数 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講 評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	88.5	93.2	例年通り、四則演算を含む小問集合であった。基本問題の集合であり、ここでの取りこぼしは避けたい。(5)は三角形の相似を利用する問題だが、図がなかったので解きにくいと感じた受験生もいたようで、やや正答率は低かった。
	(2)	63.5	75.4	
	(3)	83.1	96.2	
	(4)	79.6	92.4	
	(5)	62.9	77.5	
	(6)	74.4	90.7	
【2】	(1)	90.9	97.0	食塩水の定番問題。多くの受験生が正解しており、取りこぼしは避けなければならない。
	(2)	83.1	97.0	
【3】	(1)	66.7	89.4	ニュートン算の問題。ニュートン算自体、理解しにくい分野であるが、世田谷学園の算数入試では頻出である。よく対策を講じてきている印象である。
	(2)	62.9	87.7	
【4】	(1)	48.5	69.5	整数の問題。(1)のような素数の倍数の個数を問う問題は定番であるが、(2)では規則性が表れるまでの周期が長く、戸惑った受験生が多かったようである。
	(2)	12.4	20.8	
【5】	(1)	74.4	97.3	ルーローの三角形に関する問題。(2)では面積を求める部分を分割して考えるが、特に扇形部分の半径や中心角が正確に考えられていない答案が散見された。
	(2)	8.3	16.7	
【6】	(1)	46.3	78.3	速さの応用題。木片の動きをグラフから読み取り、計算によって求められるかがポイント。結果的には合格者と不合格者の正答率の差が大きく出ており、合否を分ける問題となった。
	(2)	11.6	24.3	

算数 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	78.1	92.7	例年通り、四則演算を含む小問集合であった。(4)の和差算の応用、(6)の平面図形の求積の正答率が低かった。
	(2)	78.6	96.4	
	(3)	71.6	89.1	
	(4)	25.1	58.2	
	(5)	67.6	81.8	
	(6)	48.5	85.5	
【2】	(1)	58.3	90.9	比の問題。定番の問題であり、合格者の大半は正解していた。
	(2)	44.0	81.8	
【3】	(1)	6.8	25.5	場合の数の応用問題。さいころの「目の合計」について問う問題だったが、「目」について問われていると勘違いしている答案が散見され、正答率は低かった。結果的にこの出来は合否に影響はなかった。
	(2)	1.5	3.6	
【4】	(1)	79.4	94.5	数列の問題。(1)は定番問題であり、よくできていた。(2)は条件を満たすものを、場合分けをして過不足なく抜き出せるかがポイントであった。
	(2)	15.3	38.2	
【5】	(1)	55.3	95.6	正六角形と比の問題。等積変形や相似比を使って面積比を求める定番問題だが、合格者と不合格者の正答率の差が大きく出ており、合否を分ける問題となった。
	(2)	17.9	57.4	
【6】	(1)	16.7	32.7	80進法の時計算の問題。80進法は馴染みが薄く、戸惑った受験生が多かったようで、正答率は低かった。
	(2)	13.3	43.1	